



2025

大幸グループ サステナビリティレポート



Building a circular economy
資源循環型社会を実現



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【お問い合わせ先】
大幸グループ CSR 事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

■携帯電話からのアクセス
e-mail: sea-mew@daiko-group.com
右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、
直接サイトにアクセスできます。
<http://www.daiko-group.com/>



この印刷物は環境に配慮した「ベジタブルインキ」で印刷されています。

弊社は暴力団等反社会的勢力との取り引きは一切行いません (ホームページ掲載)

2026.1.1500

大室山



リサイクル製品のトップランナーとして資源循環型社会の実現に取り組んでいきます。

業界のトップランナーとしてリサイクル製品の実績を積み重ねる

昨年のサステナビリティレポートでお話したように、再資源化事業高度化法（資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律）が2025年2月1日に施行されました。私は1997年に社団法人全国産業廃棄物連合会（現：公益社団法人全国産業資源循環連合会）の建設廃棄物部会の副会長に就任して以来、国や行政機関に対して建設系廃棄物の再資源化の法整備を提言してきました。2006年には建設汚泥の再生利用の基準などを検討する委員会のメンバーの一員として、行政機関や研究機関の担当者などとともに報告書をまとめました。今回の再資源化事業高度化法は、私たちが長年にわたって積み重ねてきた議論をベースに成立したものであり、その施行は資源循環型社会の実現に向けた大きな転換点となります。

国や行政機関に法整備を訴える一方で、大幸グループにおいては大学など学術機関と連携して再生品の研究開発や生産設備の拡充を図り、処理業から製造業への転換を推進してきました。現在では建設汚泥から製造する流動化処理土「ポリソイル」は日量約300tを安定的に生産し、再生土「ポリアース」も2025年の製造量は11月末で約

97,000tを超えています。ポリソイルはビルの建替え工事で地下水の噴出を防ぐ地下構造物の埋戻し材としての需要が増えており、安全な工事に貢献しています。ポリアースは津波や洪水に備えた土地の嵩上げのための需要が急増しており、災害に強い国土づくりに貢献しています。

大幸グループはリサイクル製品の出荷量において業界で比類のない実績を誇り、再資源化事業の先頭を走っています。

製造現場を見学いただくことでリサイクル製品の需要を促進

当社のリサイクル製品を製造する堺プラントには、国土交通省をはじめとした行政関係者や排出事業者の皆さまなど、多くのお客さまが視察にいられます。訪れた皆さまが一様に驚かれるのは「施設のきれいさ」です。

固化再生施設では受入ピットに投入された原材料（建設汚泥）をベルトコンベヤで施設に運び、攪拌や異物除去、固形化などの連続再生処理を主に屋内で行っています。建屋には局所集塵機2機、屋外に1200 m³/minの大型集塵機2機を設置しています。ですから、埃が舞っていたりすることはありません。快適な労働環境の中で徹底した品質管理を行っている様子をご覧になり「さすがは

企業理念

私たちは「地球を大切に」という合い言葉のもとに地球環境時代にふさわしい企業をめざしています。リサイクル技術の開発など、産業廃棄物を地球にやさしく還す方法を常に追い求め、この大切な地球環境をすばらしい状態で未来に残したいと心から願う人間の集まりです。

建設汚泥再生土の第1号に認証された製品のプラントだ」と、評価していただいています。

また、環境配慮では海水を1時間あたり12.5 m³淡水化する「海水淡水化装置」によって従来の車両運搬による用水確保と比べると大幅にCO₂排出量を削減していること、保管倉庫から船舶へ再生土を直接搬出する専用バースを備え、車両輸送に比べCO₂排出量が25%削減できていることなどを紹介すると、非常に高い関心を持っていただけます。

気候変動による災害が頻発する中、カーボンニュートラルへの取り組みは待ったなしの課題になっています。公共工事においてもCO₂削減の対策は欠かせません。大幸グループでは、公共工事の発注者である国や自治体の皆さま、工事の受注者で排出事業者の皆さまにポリアースやポリソイルなどのリサイクル製品の製造現場を実際に見ていただくことで、需要を促進し、資源循環型社会を実現していきます。



環境・防災・ガバナンスを柱に社会課題の解決に取り組む

昨年度から「サステナビリティレポート」に改訂した本誌は、以前にも増して大幸グループの取り組みがよく分かったという声をたくさんいただきました。「事業活動を通じたCO₂削減や環境保全活動」「地域と一体になったBCP経営と防災・減災対策」、「より働きやすい職場環境づくりとガバナンス強化の取り組み」を大きな柱にして、様々な社会課題の解決に取り組んでいます。

防災活動では、昨年紹介した大阪市消防局さまに続き、今年度は堺市消防局さまとも災害協定を締結いたしました。私たちが事業で蓄積している知見やノウハウは、今後増加することが懸念される電気自動車（EV）の火災への対応や、大規模災害時の救出活動のサポートなどに活かすことができます。災害協定の締結で、地域の安心・安全の向上に貢献していきます。

気候変動防止への対応や誰もが安心して暮らせる社会の実現など様々な社会課題の解消は、もちろん1社だけでできるものではありません。大幸グループは、お客さま、地域の皆さまと従業員が一体となってサステナビリティ経営に取り組んでまいります。どうか一層のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

大幸工業株式会社 代表取締役
大阪ベントナイト事業協同組合 代表理事

浜野 廣美

次世代の仲間づくりを進めグループの結束力を一層強化



大幸工業株式会社 専務取締役
大阪ベントナイト事業協同組合 専務理事
浜野 真季

役員・従業員の団結を図り月例「合同会議」を改革

企業グループが滞りなく事業承継を進め、存続と成長・雇用を確保することは社会的に重要です。そのため、役員・従業員が連帯感を持って団結できる組織づくりを目指し、大幸グループ全部署による「合同会議」の改革を、2025年度からスタートしました。各業務の報告に終始するのではなく、それぞれが業務上の問題点や成果について本音で語り、互いの状況や人柄を理解したうえで課題解決を図る。とりわけ、主張の控

目な人の声を引き出して、全体の結束力を高め、次世代の仲間づくりに役立てたいと考えています。

人手不足が問題になる中、SNS による事業紹介の成果もあり、人材の採用が順調です。面接の際に志望動機を尋ねると「社会・地域貢献ができるから」という声も聞かれ、地道な活動が実を結んでいることを実感しています。

地域・社会貢献活動と幅広い組織間連携

大幸グループは、2019年に津波避難ビル兼 車輛センターを建設。2023年に大阪市消防局と災害協定を結び、2025年には堺市消防局と同様の協定を締結しました。また、平林小学校の全校児童など地域住民が参加する防災訓練を実施し、実際に津波避難ビルへの避難を行いました。

さらに、地域交流を広げるため「すみのえ TV」に出演し、これを契機に近隣の企業と連携して「地域のためにできること」「環境にいいこと」を共に模索・実践する活動を始めています。これまで点と点で結んでいた地域活動を、面にして広げていく取り組みです。

グループ外でも、環境対策協議会 (KTK) や、公益社団法人大阪府産業資源循環協会では理事、女性部では副部長として活動に参加しており、そこから得た知見

や人とのつながりを事業・環境・地域活動に生かしていきたいと考えています。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



親和・団結を図る月例「合同会議」



地域交流会



地域企業のミーティングで防災・環境活動を報告

2025大幸グループ サステナビリティレポート／ 環境省・環境報告ガイドライン(2018年版) 対照表

環境省「環境報告ガイドライン2018年版」の項目・指標と「2025大幸グループ サステナビリティレポート」の該当箇所を対照表とし、対応状況を報告します。

開示事項	ページ	CONTENTS
環境報告の記載事項		
1. 経営責任者のコミットメント	1~4	TOP MESSAGE/新時代に向けて
2. ガバナンス	18~22	ガバナンス(従業員と共に)
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	—	—
4. リスクマネジメント	9~10,12~17,22~24	環境負荷軽減認証/防災/労働安全とコンプライアンス/KTKの活動※
5. ビジネスモデル	2,26	企業理念/大幸グループ事業概要
6. バリューチェーンマネジメント	—	—
7. 長期ビジョン	2	企業理念
8. 戦略	5~8,10~11,25	カーボンニュートラルへの貢献(事業)/環境教育/環境方針認証/ESD支援
9. 重要な環境課題の特定方法	—	—
10. 事業者の重要な環境課題	9~11	環境負荷軽減/環境方針

※KTK：大阪ベントナイト事業協同組合環境対策協議会

2025 大幸グループ サステナビリティレポートに関する第三者所見

大幸グループの 2025 年サステナビリティレポートは、循環型経済の政策動向（再資源化事業等高度化法の施行等）を踏まえつつ、建設汚泥の再資源化を「処理」から「製造」へと転換してきた実装の蓄積を、堺プラントの設備・運用（屋内連続再処理、集塵機、海水淡水化装置、専用バース等）とともに具体的に示している点に特徴があり、製品（ポリソイル、ポリアース）の需要促進を行政・排出事業者との対話と現場公開で進める姿勢から、社会的受容性を確保しながら資源循環を拡大しようとする強い意志が感じられます。

また、マニフェストや優良認定制度、SDA 認証等の枠組みにより入出荷の開示・トレーサビリ

を担保しようとする整備は、静脈物流における信頼形成の観点から重要であり、防災協定や地域訓練、環境教育の取り組みを併せて示すことで、環境・防災・ガバナンスを柱とする地域協働型のサステナビリティ経営が読み取れます。今後、CO₂削減・固定の効果を定量的に継続提示しつつ、社会実装の波及が一層進むことを期待します。

京都大学
大学院 地球環境学堂
教授 **勝見 武**



堺プラントの視察会・意見交換を通し 再生品の需要促進、循環型経済を目指す

大幸グループ 大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラントでは、リサイクル製品「ポリソイル（流動化処理土）」「ポリアース（再生土）」の製造・出荷を行っています。ポリソイルは、海水淡水化装置の場内設置により、用水の車両運送を廃止し CO₂を低減しています。またポリアースは、原料（建設汚泥）を受け入れ、再生処理を行う工程で、空気中の CO₂を製品に閉じ込め（固定）、さらに海上輸送等により CO₂を削減しています。国土交通省をはじめとする行政関係者や排出事業者の皆さまが視察に訪れ、活発な意見交換を実施してきました。こうした機会を通してリサイクル製品の優位性を訴求し、資源循環型社会の構築を推進します。

【ポリソイル（流動化処理土）】

海水淡水化装置を設置し CO₂削減

ポリソイルは、現場から発生した建設汚泥を再生し現場へ循環させるリサイクル埋め戻し材です。製造時に大量の用水を必要とするため、大阪湾に面した当プラントでは 2022 年に海水淡水化装置を導入し、1 時間あたり 12.5 m³を処理して使用しています。高純度な淡水約 200 m³の貯蔵が可能で、安定的に用水を確保でき、車両輸送によって発生する CO₂を低減しています。



海水淡水化装置

施設見学会



ゼネコご担当者が流動化プラントを見学



海水淡水化装置の取水口

太陽光パネルや、製品の海上輸送により、CO₂排出量を大幅に削減しています。

建設汚泥再生土 CO₂固定量 実績

	再生土製造量 (t)	CO ₂ 固定量 (t)
2021年	203,840	3,669
2022年	101,943	1,835
2023年	123,327	2,220
2024年	165,475	2,978
2025年	97,252	1,750

2025年11月現在

【ポリアース（再生土）】

製造工程で CO₂ を再生土に固定

再生土「ポリアース」は、製造過程において大気中の CO₂を再生土に閉じ込めることで脱炭素社会形成に資する製品です。建設汚泥の再生処理工程で、何度も空気に接触させる事により、空気中に含まれる CO₂を炭酸塩化反応で固定します。さらに、保管倉庫に設けた



製品の海上輸送。車両輸送に比べCO₂排出量を25%削減します

施設見学会



建屋内の再生施設。屋内外に集塵機を装備

〈法律と公的第三者でトレーサビリティが担保された堺プラント〉

堺プラントは、1990 年度の廃棄物処理法改正により制定された産業廃棄物管理票（マニフェスト）で入荷量を開示しています。また、優良な産業廃棄物処理業者を都道府県・政令市が認定する優良産廃処理業者認定制度により、2011 年に堺市より認定を受け、製品の出荷量を開示しています。さらに 2022 年、ポリアースが建設汚泥再生土の有価物該当性の審査認証（SDA01001）、第 1 号を取得しました。



環境事業実績を評価。地域で「自ら考え行動する」学びの拡大を。

再資源化事業高度化法の施行を背景に、大幸グループが建設汚泥を「処理」から「製造」へ転換し、ポリソイル日量約 300t の安定供給やポリアースの製造実績を積み重ねている点は、資源循環型社会のモデルとして高く評価できます。加えて、マニフェスト制度や認定制度等によりトレーサビリティを担保し、信頼性を可視化していることは、社会的価値が大きいといえます。

脱炭素の面では、海水淡水化装置や太陽光発電、海上輸送による CO₂削減に加え、再生土製造過程における CO₂固定化を組み合わせ、削減と固定の両輪で取り組んでいる姿勢は重要です。

今後は、こどもベジタブルガーデンや道路清掃

などの地域参加型活動を通じて、子どもから大人までが「自ら考え行動する」学びを広げ、環境意識と行動変容の輪を地域社会へと拡大していくことを期待します。

(プロフィール)
大阪大谷大学 教育学部 学部長・教授。博士（理学）。大学在学時は理学部 理学研究科に所属し、環境問題や自然災害に関して粘土鉱物を中心に研究。現在は教員として教育学部に所属、保育士や教員養成に携わり、環境教育や防災教育に関して実践研究を行う。

大阪大谷大学
教育学部 学部長 教授
地下 まゆみ



地域住民の皆さまと協働し 持続可能な環境づくりを推進

大幸グループでは、地域住民と共にサステナブル社会を実現するためのプロジェクトに取り組んでいます。とりわけ、将来を担う子どもたちと共に、ゴミの減量、土と農作物を考えるイベントを通し、持続可能な未来のまちづくりを目指していきます。

KTK 道路清掃美化キャンペーン

大幸グループを中心に取り組む KTK 道路清掃美化キャンペーン（環境対策協議会主催）は、環境について考え、持続可能なまちづくりに貢献する取り組みで、子どもたちを含む地域全体の生涯学習の場ともなっています。2004年（平成16年）にスタートし、コロナ禍による中断を経て2023年に再開、18回目となる2025年は10月26日に開催し267人が参加しました。

当日は、大幸グループ、KTK 会員企業の社員・家族、地元町会や自治体、その他賛同の方々が5班に分かれてゴミを拾い、2tトラック2台分を回収。清掃終了後は大幸グループの車輛センターで懇親会を行い、みんなで屋台フードのランチタイムを楽しみました。子どもたちは、この日の感想を文章やイラストで描き、ゴミの多さや環境について友達や家族と一緒に考えました。



車輛センターを拠点に開催し、267人が参加



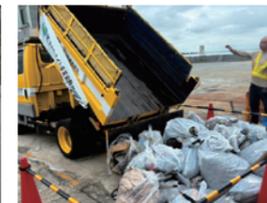
開催にあたり、浜野廣美会長が挨拶



5班に分かれ、歩道や緑地帯を清掃



小さな子どもも活躍



2tトラック2台分を回収



清掃終了後の懇親会

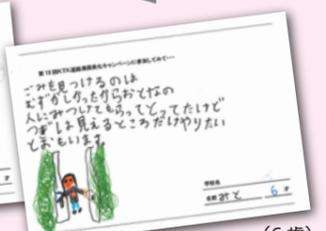
子どもたちの感想文より



当日、感想を描く子どもたち



(11歳)



(6歳)

●思ったよりゴミがいっぱいあった。地面に落ちているのもあったけど、草とか植木の中におしこめられている方が多かった。いっぱいゴミをひろったあとのご飯はすごくおいしかった。来年も行きたいと思った。
(11歳)

こどもベジタブル・ガーデン

2023年より車輛センター内に、こどもベジタブルガーデンを設け、地元の子供たちと栽培・収穫を行っています。2025年の春から、竹炭や蛎殻石灰を土に混ぜ込んで、化学肥料や農薬を使わない自然農法の栽培に切り替え、落花生やオクラ、枝豆などを栽培。同年11月には、近隣に位置する新北島中学の生徒と共に、新たに畝を作り、環境教育の実践の場として活用しました（P.17 参照）。車輛センターは、地域の「津波避難ビル」を兼ねていることから、ビルの存在と場所を認識してもらい、緊急時の避難行動に役立てる目的も担っています。



自然農法の畑



2025年春に植えた落花生の収穫



ミニ耕うん機で中学生と共に土づくり



オクラの花と実

環境負荷に対する活動の目標と実績のサステナビリティ

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとでの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。



環境データ

南港処理センター（各項目月1回実施）

項目	単位	廃棄物処理法基準値	最終処分場受入基準	測定値	
				最小値	最大値
カドミウム	mg/L	0.09	0.09	<0.01	<0.01
鉛	mg/L	0.3	0.3	<0.01	0.01
六価クロム	mg/L	1.5	0.5	<0.05	<0.05
砒素	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
セレン	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
シアン	mg/L	1	1	<0.1	<0.1
熱灼減量	%	-	15	4.5	13.6

泉プラント（各項目月1回実施）

項目	単位	廃棄物処理法基準値	最終処分場受入基準	測定値	
				最小値	最大値
カドミウム	mg/L	0.09	0.09	<0.01	<0.01
鉛	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
六価クロム	mg/L	1.5	0.5	<0.05	<0.05
砒素	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
セレン	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
シアン	mg/L	1	1	<0.1	<0.1
熱灼減量	%	-	15	2.8	13.2

物品のリサイクル活動

私たちは、資源の新たな可能性と価値の発見に取り組む組織として、身近なすべてのものを注意深く見つめ、再利用を図っています。



使用済み切手も、キログラム単位の重さになると換金され寄付に用いることができます。回収された使用済み切手は、ボランティア組織から切手商の手を経て、切手コレクターに渡ります。このことで新たな価値を生み出し、換金・寄付によって困窮する世界の人々の役に立ちます。

事務用品や衛生用品の梱包材など、事業活動で発生するダンボールも環境資源と考え、2014年からリサイクル活動をスタートしました。2025年(1月～12月)は約200kgのダンボールを再資源化。備品・消耗品の荷ほどき後、ダンボールを所定の位置に運ぶという「ひと手間」の慣習化により、従業員の環境意識が高まりを見せています。

2025年目標とその成果

目的	目標値	具体的実施方法	評価
南港処理センター			
無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	●●●
河川水使用量の削減	月間使用量を目標値までに抑える	構内散水の節約・放流水の制限	●●
法規制の順守	下水排水規制値を順守する	内部分析・外部分析	●●●
法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	●●●
地域との共存共栄の推進	近隣からの苦情ゼロを目指す	工場付近の定期清掃・近隣の意見を聞く	●●●
泉プラント			
無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	●●●
作業員のレベルアップ	社外研修の参加	設備に合わせた社外研修の実施	●●●
薬品使用量の削減	薬品使用量を目標値までに抑える	処理手順の見直し・サンプル実験の実施	●●
法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	●●●
重機の延命化	重機故障ゼロを目指す	定期清掃・点検の見直し・強化	●●
堺プラント			
無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	●●●
設備機器の理解	1つの設備ごとに見直し研修を開催する	メーカーのマニュアルを使用して研修を行う	●●●
再生品の品質確保	社内基準値を順守する	内部分析・外部分析	●●●
設備の月間点検		月間点検記録の内容に従って実施	●●●
再生品の販売量確保	一定量の販売を確保	取引の強化・見直し	●●
本社			
社員のレベルアップ	法改正に関するセミナーに参加する	セミナーの調査、研修申込等	●●
電子Manifestoの推進	紙Manifestoからの移行	顧客との交渉	●●
地域との共存共栄の推進	地域主体イベントへの参加	イベント参加にて地域交流を深める	●●
運輸部			
情報公開 顧客サービスの充実	優良処理業者の維持	産廃ネット更新、許可更新での申請	●●●
残業時間の軽減	全運転手の月残業を目標値以内にする	配車計画の効率化	●●●
法令の順守	交通違反・交通事故ゼロを目指す	道交法の順守、社員教育など	●●
指針12項目教育	月1回実施	社員教育の実施	●●●
拘束時間の軽減	全運転手の拘束時間を目標値以内にする	配車の効率化	●●●

● 目標未達成 ●● 目標ほぼ達成 ●●● 目標達成

環境マネジメント・認証取得

ISO 取得状況

大幸グループは、総合的な企業風土、従業員個人の社会貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けてISO9001、ISO14001の認証を取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

内部環境監査

ISO9001、ISO14001 取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムのPDCA サイクルに基づき、内部監査を実施。環境実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関の NQA による監査を受けています。例年、審査結果をもとに指摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。

揺るぎない環境理念に根ざして

2025年(令和7年)度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

年度方針・環境方針

- 社長方針 「融合」**
- 一、全従業員の意識とビジネス戦略のベクトル融合
 - 一、美しい職場環境と技術の融合が良い製品・仕事を産む
 - 一、ポジティブ思想と実りある暮らしが融合し好循環を作る

環境方針 私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適正処理、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

ISOスローガン 「考えよう 一人ひとりができるエコ」

1 安全・安定操業の確保

- ① 教育・訓練を充実し個々のレベルアップを図る。
 - ・社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。
- ② 事故・トラブルの原因を徹底究明し再発を防止する。
 - ・事故対策会議を実施し類似事故の再発を防止する。

2 組織の強化と業績改善の推進

- ① 法令順守と情報公開
 - ・産廃ネット等での情報公開を推進し企業イメージのアップを図る。
 - ・電子マニフェスト化の推進等により法令順守意識の高揚を図る。
 - ・トラック運転者に対する改善基準告知を順守する。
- ② 業績改善の推進
 - ・業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。
 - ・ISO活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。
 - ・リサイクル製品の品質向上を図り、顧客満足向上に努める。

3 「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進する。

- ① 車両・重機の燃料効率の向上
 - ・エコドライブの実践 — 急発進・急加速防止・アイドリングストップに務める。
- ② 「もったいない運動」の推進
 - ・紙使用削減、薬剤使用削減、電力使用削減に務める。
- ③ 地域との共存共栄の推進
 - ・道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。

4 顧客サービスの充実

- ① 顧客ニーズに対応した処理システムの開発
 - ・3Rコスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

新たに堺市消防局と災害協定を締結 土砂埋没事故の発生時に支援協力

2025年3月、大幸グループは堺市消防局の要請を受け、「災害時における消防活動への協力に関する協定」を締結、土砂埋没事故発生時に支援協力を行う協定書を取り交わしました。大幸グループは、先駆的な取り組みとして、2023年に大阪市消防局と同様の協定を結んでおり、これに続く協力支援事業となります。大幸グループの業務ノウハウを用いて消防活動に協力し、今後も社会・地域の安心・安全に貢献していきます。

土砂埋没災害時における消防活動への協力に関する協定締結式

<2025年3月4日>

堺市消防局と大幸工業株式会社は、同局管内で土砂等による埋没事故が発生した場合、土砂の吸引及び運搬等を行う協定の締結式を実施しました。



堺市消防局との防災訓練協力

<2025年3月7日>

堺市総合防災センターにおいて、大幸グループの吸引車とその乗務員、車輛センター管理者、取締役が、堺市消防局と協働で埋没事故発生時の訓練を実施しました。



合同地域活動として防災訓練を実施 小学生が避難訓練と防災レクチャーに参加

大幸グループでは、安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、例年秋に地域の皆さまと協働で防災訓練を実施してきました。2025 年は、大阪市立平林小学校・さざんか平林協議会・住之江区役所・住之江消防署の合同地域活動として、防災訓練を開催。平林小学校の児童約 110 名と保護者が、同校から津波避難ビル兼 車輛センター（以下「避難ビル」）まで避難訓練を行い、防災に関するレクチャーなどを体験しました。

避難訓練

11 月 29 日午前 10 時前に大地震が発生したという想定で、平林小学校 1～6 年の児童らが校庭に集合、地域別の A～C グループに分かれ、避難ビルへの経路を確認しながら迅速に移動しました。教職員や保護者、協議会会長、府警巡査に見守られつつ交差点を渡り、避難ビルへ到着して整列。大幸グループの役員・浜野真季は「平林小学校の校区は、海や川が近い、水の多い地域です。大地震や大雨が起り浸水の危険があるときは 3m 以上の高さまで逃げることを覚えておいてください」と述べ、当ビルが津波避難ビルに指定されていることを伝えました。

児童・保護者は、避難ビル内部の見学、避難用外階段・内階段の確認を兼ねて、グループごとに 1 階・2 階・3 階の会場に移動し、防災レクチャーや体験授業（各 25 分）を受けました。



校庭から避難



避難ビルに到着



外階段から駐車スペースへ移動

レクチャー・体験授業

応急手当での実践ブース

（担当：住之江消防署、場所：避難ビル 1 階 / 建屋内）

家具の倒壊等で包帯などが手に入らない事態に備え、雑誌やネクタイ、レジ袋など身近な物を使って、止血や腕の固定を行う授業を体験しました。



雑誌とネクタイで止血する訓練

防災レクチャーのブース

（担当：大幸グループ、場所：避難ビル 3 階 / 事務所棟）

大幸グループの役員・浜野真季が、地震や津波の仕組み、予想される津波の高さや到達時間、水害の様子（シミュレーション動画）、津波避難ビルと避難所の違いなどについて説明しました。

防災クイズのブース

（担当：住之江区役所・平林小学校、場所：避難ビル 2 階 / 事務所棟）

平林小学校の家田校長先生が 3 択クイズを投げかけ、児童・保護者が解答します。地震や津波の際にどうすれば身を守れるか、楽しく学べました。



クイズ形式で防災を学ぶ



地震・津波・水害などの学習

自助・共助・公助の意識を次世代へ



大阪市立平林小学校 校長 家田 志朗氏

子どもたちが地域の方々と共に行動することで、自分の命を守る防災意識に加え、共助・公助の気持ちを養う機会になりました。大人になっても「ここに住みたい」と思い、自ら防災リーダーになって、次世代を育て地域づくりができれば嬉しいです。

避難ビルをよく知り、緊急時に備えて



さざんか平林協議会 会長 松浦 正敏氏

地域の小学生が通学しているとき地震が起きたら……？ そんな観点から今回の避難訓練が行われました。「避難ビル」への道順や建物の構造を知り、緊急時に役立ててほしいです。このビルは頑丈な造りと聞いており、地域として心強く感じています。

地域が力を合わせて準備し実現！



住之江区役所 防災安全担当 課長 戸井 正人氏

消防署・小学校・区役所などの自治体各組織と企業がうまく手を組み、準備を進めてきた防災イベントです。皆さんの協力、防災意識があつてこそその実現だと思います。平林地区に 22 カ所ある津波避難ビルの場所やマークを、よく覚えておいてほしいですね。

「命を守る」活動を地域ぐるみで実践



大阪市消防局 住之江消防署 署長 松倉 良友氏

身近な物を使って応急手当を行うブースを出展しました。小学生が、各ブースで学んだ内容を家庭で話してもらえると、より防災意識を高めることができるでしょう。地域協働の訓練は「自分たちの命は自分たちで守る」ためのよい学習になると思います。

意義ある地域合同の防災活動。今後も災害対応力の向上を。

2025 年は「避難ビル」を主会場とし、小学校など地域の各組織による合同防災訓練を実施されました。一般的には、「避難ビル」の運用、防災訓練は企業の BCP 活動の一環として捉えられます。しかし、大幸グループでは、地域協働で訓練を行うことにより、企業内の対策に留まらず、周辺地域全体の防災力向上に貢献されており、大きな意義があると評価しています。

社員の皆様一人ひとりが防災知識や対応力を蓄積されたとしても、企業の枠を超えてその力を発揮するためには、地域の皆様との関係性が不可欠です。寄せ植え教室、盆踊り大会などを通じて、普段から地域の皆様と信頼関係を築いていただいていることに、意義があると考えます。

災害はいつ起こるか分かりません。例えば、勤務時間外に災害が発生する場合も想定した訓練を行い、対応力を高

めておくことが重要です。そうすることで、各自が状況に応じ主体的に判断・行動できるようになり、災害時に起こる想定外の事態にも対応しやすくなります。大幸グループによる防災活動の一層の発展を期待します。

（プロフィール）

大阪大学大学院 工学研究科 教授。博士（工学）。1999 年 3 月、京都大学大学院 工学研究科修士課程修了。京都大学助手、助教、准教授等を経て 2018 年 6 月より現職。専門は地盤工学、特に改良土や循環資材の地盤材料特性、地中における有害物質の挙動とその対策。

KTK 防災対策実行委員会 委員長 乾 徹氏





BCP・防災システムを維持管理し 従業員と地域の皆さまを守る

災害時等に従業員・設備、そして地域の皆さまを守り、事業継続により顧客との信頼関係、社会的役割をより確かなものとするため、BCP（事業継続計画）の拠点「津波避難ビル 兼 車輛センター」をはじめとする防災システムの維持管理、更新に努めています。



津波避難ビル 兼 車輛センター

津波避難ビル 兼 車輛センター

南海トラフ地震や大和川の氾濫、内水氾濫に備え、大幸グループでは2019年12月に「津波避難ビル 兼 車輛センター（以下「避難ビル」）」を建設しました。平常時は大幸工業株式会社 運輸部の管理施設として機能しており、20tクラスの車両が通行・駐車する頑丈な構造となっています。津波などの災害時には、車両用スロープが車いすやベビーカーの避難経路になり、高さ7mの立体駐車場、車いす対応トイレも備えた事務所

棟へと移動できます。なお、「避難ビル」は、大阪の森林資源由来の燃料を用いた木質バイオマス電力を使用しています。



3mの津波到達時の仮想イメージ

非常用品の備蓄・更新と自家発電

災害避難が長引く場合に備えて、自治体支給の備蓄品に加え、地域企業の製造する非常食おにぎりなど、大幸グループ独自に物品を購入・備蓄し、消費期限前に更新を行っています。また、「避難ビル」駐車場の最上階に、事務所棟の必要電力をまかなえる大容量出力



非常食、飲料水、ガスコンロ、乾電池、アルミブランケット、トイレ凝固剤等を備蓄

タイプの自家発電機を設置。さらに、保有する大型車両に機器を接続して電源を確保することも可能です。



津波避難ビルの自家発電機

地域への「津波避難ビル」周知と 災害時の協働に向けた交流活動

大地震、津波などの発災時は、自治体・企業・地域の相互協力が大きな力となります。そのため、平常時から避難場所を確認し、顔の見える関係性を築くことが重要です。大幸グループでは、「津波避難ビル」の周知、地域全体の防災力向上を促進する多様な交流事業を進めています。

寄せ植え教室〈第25回〉〈第26回〉

リサイクル土を用い、例年2回、平林福祉会館で開催している地域の「寄せ植え教室」。さざんか平林協議会と従業員が協働で準備を行い、継続的に実施しています。

第25回（2024年12月）は、プリムラや葉ボタンなど迎春の寄せ植えを行い、正月飾りも添えて華やかに。第26回（2025年8月）は、カラーをはじめとする観

葉植物を寄せ植えしました。当日は、住之江区役所や住之江警察署、住之江消防署からもご参加をいただき、顔の見える関係性づくりに資するべく、例年通り実習後に茶話会を開きました。今後も地域の皆さまと共に、持続可能な地域づくり、防災・環境活動を続けていきます。



2025年8月5日第26回



作業後の茶話会



2024年12月18日第25回

地域のハロウィン行事に協賛

大幸グループは、「地域みんなで子どもを育てよう」という、さざんか平林協議会（大阪市住之江区）の「ひら子屋」活動に賛同し、2025年もハロウィン行事のお菓子提供に協賛しました。当日10月27日の夕方、地域の子もたちが大幸工業株式会社本社を訪れ、玄関ホールでハロウィン・デコレーションや、受け取ったお菓子に笑顔を見せました。



大幸工業本社でハロウィンのお菓子配布

平林納涼盆踊り大会に参加

大幸グループでは、地域文化・芸能の伝承と交流を目的に、さざんか平林協議会主催で開かれる盆踊り大会に参加しています。2025年8月23日、会場の平林福祉会館前広場に従業員が集まり、かき氷・フライドポテト・焼き鳥・わらび餅・当て物等の各屋台を担当してイベントを盛り上げました。



大幸グループの焼き鳥屋台



大幸グループのかき氷屋台

中学生の職場体験受け入れ

地域の中学生が、持続可能な経済活動を学び、体験して、将来の社会的自立につながる職業教育の機会となるよう、本社近隣に位置する大阪市立中学校の職場体験学習を受け入れています。2014年より継続する新北島中学校に加え、2025年は南港北中学校の受け入れを実施しました。

9月11日～12日、南港北中学校の生徒4人が本社を訪れ、プラント見学者用の備品準備や請求書の発送作業等を体験。さらに、車輛センターで大型車運転席から死角を確認したり、災害発生時に用いる非常食の調理等を行いました。

また、11月13日～14日には、新北島中学校の生徒2人が伝票の押印、子どもベジタブルガーデンでの自然農法に向けた土壌づくり（P.8参照）、平林地域のふれあい喫茶「ひら茶」での交流食事会などを体験しました。



大型車両の運転席で死角を確認



工場見学用の備品セットを準備



ミニ耕うん機で行う、土壌づくり



<中学生の体験感想文から抜粋>

- リサイクルの方法を実際に見て、ごみが変わっていく様子を知り、環境について考える機会になりました。
- 車の整備員はボルトをただでゆのみが分かる～略～、見逃すと大事故につながるわかりました。
- 災害のときのために水だけで作れるおにぎりなどがありました。

子ども会の体育事業・U-12 サッカー大会後援

地域の子どもの健全なライフスタイル育成等を目指す「住之江区子ども会育成連合協議会体育事業」および、元サッカー選手の故・釜本邦茂氏の名を冠した「KAMAMOTO SUMMER SOCCER FESTIVAL」に賛同し、後援・協賛を行っています。大幸グループは子どもたちの健康増進と成長を応援しています。



KAMAMOTO SUMMER SOCCER FESTIVAL2025



ガバナンス強化の取り組みとより働きやすい職場環境づくり

大幸グループは、持続的な成長と企業価値の向上を図り、コーポレート・ガバナンスへの積極的な取り組みを行い、業務体制の整備、健全性の確保、コンプライアンスの強化に向けて、組織・仕組みづくりを実施しています。また、従業員一人ひとりが働き甲斐を感じ、長く続けられる職場環境づくりに向けて様々な制度を設置。労働安全衛生、リスクアセスメントへの取り組みを強化し、グループが団結し共に歩む体制づくりを行っています。



■合同会議の体制整備

大幸グループでは、大幸工業株式会社本社・車輛センター、大阪ベントナイト事業協同組合南港・堺・泉プラントの管理職による月例「合同会議」を実施してきましたが、2025年度より会議の進行など体制を一新、業務上の課題についてディスカッションを重ね、抜本的解決を目指す取り組みを進めています。各部署の連携・結束力を強化し、未来へ向けて地盤を固めるための施策として、長期的視野で歩みを進めていきます。



会議風景

課題解決を目指す新たな「合同会議」



大幸工業株式会社 営業部 課長 植田 伸太郎

従来の合同会議は各部署の報告に終始する傾向がありましたが、2025年4月以降、部署を横断した柔軟な話し合いを進めています。まず、グループの強み・課題を各部署の視点で洗い出し、課題解決の方策を深く掘り下げていきます。営業は他部署と話す機会が多いのですが、位置の離れたプラントの中間管理職などは、役員らとコミュニケーションを取る機会が多くあ

りません。そうした基礎的な課題から順次、議題に取り上げています。運搬車両の予定表をグループ内システムで共有するなど具体策が実現し、効果が少しずつ現れています。



付箋を用いて業務上の課題を洗い出す

■資格・免許取得の支援

車輛センターにおいて安全・確実な輸送を管理する運行管理者や、プラントにおける重機オペレーターの各種資格・免許の取得を支援するため、研修への参加費や、資格試験・免許取得に関する費用負担を実施しています。

資格・免許の取得は、業務上の必要性ばかりでなく、個人の技能を伸ばし成長を促すため、大幸グループを挙げて推奨しています。

■グループ内表彰

大幸グループでは、長く職場の戦力として実績を積んだ従業員に対し「永年勤続表彰(10年・20年・30年)」を行っています。また、定年退職者に、感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈しています。さらに、働きがいのある職場づくりに向けて「優良従業員表彰」「優良乗務員表彰」および、洗車に特別努力した乗務員へ「車両びかびか賞」の表彰を実施しています。



永年勤続表彰



優良従業員・優良乗務員・車両びかびか表彰

多様な個性・経験を持つ新入社員の研修とダイバーシティ&インクルージョン

大幸グループでは、多様化する価値観を背景に、従業員のそれぞれの個性・キャリア・能力を活かして長期的に働ける職場環境を目指し、新人教育・従業員研修、育児・介護支援制度等を設置。ワークライフバランスに配慮し、各自が助け合いながら一体感をもって勤務できる環境づくりを進めています。

新入社員

入社後、グループ各部署の業務を学ぶ研修、専門分野の研修などを展開しています。

入社後、様々な研修を受講



運輸部ドライバー
堀江 広章
(2024年8月入社)

以前は生協の配達員をしていましたが、大型車の運転に挑戦したくて免許を取得し、先輩の紹介で就職試験を受けました。入社して運転ビデオ研修、外部での運転講習、各プラントを実地に学ぶ研修を受講。その後も月1回のビデオ研修を継続的に受けています。担当の10t車をマスターできたら他の車種にも挑戦したいです。

先輩が運転・作業のコツを指導



運輸部ドライバー
山内 貴博
(2025年7月入社)

元々4t車に乗って貨物を扱っていて、大型にステップアップしようと思い、友人の紹介で志望しました。研修後、先輩が横の席で、特殊車両の安全な運転方法や作業法を指導してくださいました。4tに比べ大きいのでバックに苦労しましたが、大型を運転する楽しさを感じています。日曜・祝日に休みが取れるのも利点ですね。

事業内容・専門用語を徐々に習得



総務部
長光 真彩
(2024年6月入社)

引っ越しをきっかけに、事務職を希望し入社しました。電子Manifesto(伝票)の入力処理や請求書の発送など営業事務を担当しています。グループ内にプラントや配車業務の部署があり、当初は事業を把握するのが難しかったのですが、プラント研修や車輛センターの見学に助けられ、専門用語も少しずつ理解できました。

他部署と関わりながら進める仕事



総務部
中野 星
(2024年6月入社)

社会基盤として必要とされる業務内容で、福利厚生も充実しているので志望しました。入社後3~4カ月、応援人員としてプラントを回り、事業の仕組みやモノの動きを学びました。今は総務部所属ですが、備品の手配などで各部署とやりとりしており、コミュニケーションが楽しいです。オールラウンダーを目指して頑張ります。

制度などに魅力を感じて応募



営業部
野村 武利生
(2025年4月入社)

自衛隊の任期が満了し、営業希望で応募しました。休日がしっかり取れ、家賃補助など福利厚生が整っているのもありがたいです。入社後1カ月ほどプラントに入り、研修等を行いながら各施設の役割を学びましたが、明るい人が多く楽しい職場です。今は建設系の営業を担当、とにかく元気に精進します。

受付を担当、働きやすい現場です



堺プラント
中野 里佳
(2024年12月入社)

事務系の仕事をしていたのですが、娘が本社へ就職し、その紹介で応募しました。入社後、大幸グループについてビデオで学習し、その後は堺プラントで車両の受付を担当しています。気さくな工場長や先輩が、冗談も交えながら楽しく業務を教えてくださいました。受付なので、乗務員さんとのコミュニケーションが大事ですね。

重機免許を取り、業務貢献したい



堺プラント
矢野 明彦
(2025年9月入社)

元々、車両系基礎工事用の資格とフォークリフト免許を持っていたのですが、当社ではバックホウの免許取得を支援してもらえると聞き、今後チャレンジしたいと思っています。まだ入社2週間で、今は車両の誘導や、プラント機械の作動状況を確認しながらの清掃業務などを担当。周りの人間関係も良く、長く勤めたい職場です。

入社前の不安が「やりがい」に変化



堺プラント
宮原 仁
(2025年4月入社)

父が勤務していたので、幼い頃から社員さんたちにかわいがってもらい、その縁で応募しました。職場は良い人、楽しい人ばかりで、難しそうな仕事も親切に教えてもらい、入社前の不安が消えました。流動化処理土の出荷業務もできるようになり「仕事をしている」と実感。今後、重機の運転など自分のできることは全てやりたいです。

プラントの丁寧な指導に感謝



南港処理センター
木村 泰慶
(2025年4月入社)

プラントの機械を操作して、建設現場で排出される汚泥・汚水の処理を行っています。入社当初は業務全体の流れが理解できず、進め方も分からなかったのですが、周りの皆さんが繰り返し教えてくださったので、「そういうことか」と分かるようになりました。いずれ免許を取得しクレーンやショベルの仕事も担当したいです。

定年後の継続雇用・嘱託就業

少子高齢化、働き方の多様化を鑑み、定年後の単年契約による再雇用に加え、65歳以降の継続雇用延長を実施しています。技術・知識を次世代へ継承する人材は事業を支える大きな力であり、各自の希望を考慮しながら再契約を更新しています。

育児・介護休暇

仕事と家庭生活の両立を支援する育児・介護休暇制度を設け、従業員が安心して就業できる環境づくりを図っています。職場の理解・支援によって制度を利用しやすい環境となるよう促進し、個別にヒアリングを実施して必要なサポートを行っています。

産後健診に向けて育児休暇を取得



運輸部ドライバー
宮原 一誠

周りのドライバーたちが育児を取っていたので会社に相談してみると、親身になって取得方法を教えてくださいました。産後健診など用事が重なったとき4日ほど取得し、病院への送迎や料理を担当しました。生まれて1、2カ月の頃で、かわいくて仕方なく、抱っこしっぱなしでした。普段から、子育てのためシフトを調整してもらっているのでホント助かっています。



■従業員研修

大幸グループでは、入社後 3 カ月間、全部署の業務を学ぶ新入社員研修、管理職によるリーダー育成プロジェクトをはじめとしたセクションごとの研修、各プラントを統括する視点を育み相互活性化を図るプラント人材交換制度等、これまでに取り組んできたさまざまな活動を通し、各分野の人材育成に尽力しています。

＜＜乗務員研修制度の取り組み

事故事例・道路標識・眠気などに関するビデオ教材を用いた乗務員研修を月 1 回、全員に受講してもらい、法定 12 項目の教育を実施しています。ビデオ視聴後、各自の思い込みや誤りを正し安全運転につなげるため設問に回答してもらい、添削して本人に返却する取り組みも継続しています。

また、大幸工業株式会社および協力会社の車種グループごとに、事故事例の情報を共有し、RCA 分析（根本原因分析）を実施。「なぜ」を繰り返すことで、当時の状況やドライバー心理を探り、対策につなげる取り組みです。リーダーを中心にグループ内で協議し、目標を設定してセンター内に掲示しています。

さらに、例年 11 月、ハンドル・アクセルなどを備えた「ドライブシミュレーター」を PC 接続し、危険予測と安全確認の大切さを再認識する研修も行っています。「こうした取り組みが、安全意識の向上や安全確認の徹底につながり、事故の減少効果をもたらしています。車種グループごとに応募する『住之江地区無事故・無違反コンテスト』への挑戦も続け、今後も安全運転に邁進していきます」と運行管理者は決意を述べています。

また、公正採用選考人権啓発推進員の新任・基礎研修への参加等により公正公平な職場環境づくりを促進。事故事例や課題の共有化によって、より安全な勤務体制と、風通しのよい環境づくり、一人ひとりの資質向上・成長を目指しています。



ビデオによる法定 12 項目の研修



グループごとの事故対策ミーティング



ドライブシミュレーターによる研修

健康診断と人間ドック

若年から壮年、熟年に至るすべての従業員の健康と福利厚生を推進するため、大幸グループでは健康診断(特定健診・特定保健指導)に加え、人間ドックの利用促進にも力を注いでいます。これらは、疾病・潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療への導線となるものです。人間ドックは、従業員の高額負担抑制に向け大部分を補助し、気軽に利用できる体制を整えています。

また、働き方改革の一環として、有給休暇の取得しやすい環境づくりを促進し、有意義な休暇と休息による心身の健康増進と、生産効率の向上を目指しています。

大幸グループ通信

大幸グループ全体の情報共有を目的とした情報誌を、隔月サイクルで刊行しています。内容として、私たちが関わる環境事業の現況と今後の方向性、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、関連企業の最新情報などを掲載。すべてのスタッフと、その家族に向けて、環境事業内容と目指すベクトルについて広報を行い、グループ・関連企業の一体化と環境意識の啓発に努めています。



責任意識を重視したリスク管理、グループ目標と社会倫理の理解・実践

安全衛生、危機管理、セキュリティといった各分野において積極的にコンプライアンスに取り組み、従業員への啓蒙・教育と周知徹底に努めています。また、従業員の一人ひとりが大幸グループの目指す持続可能な方向性を理解し、守るべきルールを順守して、有効・効率的かつ適正に行動するよう指導しています。

労働安全衛生への取り組み



大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝礼および報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に責任意識の徹底に重点を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それにすべてを依存するのではなく、臨機応変に対応する、体で判断するということが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に当グループの場合、プラント、各部署によって業務の事情や状況が異なり、各プラントだけで取り扱う物や処理薬などにより対応すべき課題は違います。

具体的には、各プラントの処理業務に応じたそれぞれに求められる的確で即時的な危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等の着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策として水分・塩分補給の徹底、状況に応じた管理体制を、それぞれが目的意識を持って取り組んでいます。

リスクアセスメントの実施

業務には絶えずさまざまな危険因子が潜んでいます。その危険度に応じた評価を判定し、危険因子への対応策に優先順位をつけて意識的に確認しています。例えば、日々の朝礼時にKY(危険予知)ミーティングを実施しており、その日の作業内容から危険要因を指摘し合い、危険を回避するための対策を決めてから作業に取り掛かっています。営業活動の段階でも、危険を伴う処理の契約時には有

害・危険物質の存在と状況の説明、受け入れ場所やドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応を確認しています。

また、事故発生時の各責任者の対応マニュアルについては、熟練の現場担当者が主体となって作成することになっています。

健全な経営を目指すコンプライアンスと教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけにとらわれ、厳密な規制のみ受容すると、企業としての発展性は損なわれる可能性があります。法の精神は守るべきものとし、単純な社内制度化でなく、組織が何をビジョンに機能しているのかを従業員全体が理解して、未来につながる企業へと成長していかなければなりません。企業活動を損なう反社会的勢力に対する

対応には、専従の担当者を配置して万全の態勢を取り、断固として非暴力の推進を進めています。また、グループ内の事例はもとより、ニュースの事件事例も参考として、従業員への教育・啓蒙活動を実施し認識の周知徹底を図っています。特に車両運行では、ドライバーとしての責任と自覚を携え、組織の名前を記した車両を運行していることの重要性、状況に応じた適切な対応を行っています。

情報セキュリティ管理

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関しては、組織としても自己防衛の的確な形を作っていくことが必要となっています。個人情報保護法や法令による規制はあるものの、やはり従業員全

員が自覚と認識をもって大切な情報を保護しなければなりません。大幸グループは情報の管理をブロックごとに行い、その責任体系を明確にするとともに、必要な情報の共有という問題に取り組んでいます。

サステナビリティ社会を目指して 共通課題や情報を共有し機運を醸成

大阪ベントナイト事業協同組合と、その施設利用企業や、つながりの強い企業などが、大同団結と資質向上を目指して、1994年に「大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会(KTK)」を設立しました。現在、会員として102社(2025年12月現在)が参加しており、多様な力を集約して環境問題や廃棄物処理業界の課題を共有し、会員の技術・知識、モチベーションの向上に取り組んでいます。

2025年 活動内容

■令和7年度 新年研修会・互礼会(1月24日)

場所：スイスホテル南海大阪



●研修会



講師：株式会社浜田
ひろつぐ
木村 啓嗣 氏

テーマ：

「ヨットによる単独無寄港無補給世界一周
日本人最年少記録達成への道のり」

2024年6月にヨット単独無寄港無補給で世界一周を達成、日本最年少記録(当時24歳)を更新した木村啓嗣氏(環境ソリューション企業・株式会社浜田に所属)が登場。当プロジェクトの最大の敵「不安や恐怖」を武器に替え南米南端部ホーン岬を越えたエピソードや、挑戦することの大切さなどについて講演してくださいました。

■第32回通常総会・講演会・懇親会(4月11日)

場所：シティプラザ大阪



優良従業員表彰

●講演会



講師：リマテックホールディングス
株式会社 代表取締役社長
田中 靖訓 氏

テーマ：

「再資源化事業等高度化法の概要について」

1. カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーに係る最新の政策動向
2. 資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律について
3. 高度化法の特徴と産業廃棄物処理業者への影響

■令和7年度 夏期研修会(7月18日)

場所：シティプラザ大阪



●研修会



講師：環境造園研究家
ほうき みき
法貴 弥貴 氏

テーマ：

「都市の水循環を再生させよう！」

日本の自然環境の豊かさは世界でもトップクラスであり、その恩恵を受けてこそ私たちの経済は持続できます。根本的な資本である自然環境を回復させられるのは、業種、地域を超えて繋がり、行動する方法を知る経営者の視点です。それぞれの得意な仕事を活かして各企業が本気で取り組むよう、ご提言をいただきました。

■第27回 KTK杯ゴルフコンペ(5月16日)



場所：伏尾ゴルフ倶楽部

■KTK施設見学会(9月12日~13日)



場所：石坂産業株式会社(埼玉県入間郡)

見学会内容：

- 産業廃棄物中間処理施設・資源再生工場見学
- 三富今昔村くぬぎの森交流プラザ見学

環境対策協議会 青年部

会員各社の次期経営陣を中心とする青年部では、研修会や施設見学会等を通して、相互理解や共存発展の意識、知識・技術力を醸成します。つながりの強化により、新たな事業やプロジェクトを創出する可能性や、経営上のヒントなどを得ることができ、若い会員相互のシナジー効果を目指す活動です。

2025年 活動内容

■第30回 青年部総会(4月11日)

場所：シティプラザ大阪



■親睦ゴルフコンペ(10月4日)



場所：天野山カントリー倶楽部

■施設見学会(11月6日~7日)

場所：城東開発株式会社(愛媛県)

内容：中間処理施設の見学



■研修会(8月8日)

場所：津波・高潮ステーション(大阪市西区)

内容：高潮や地震、津波発生時の対応などを学ぶ



■第24回 ボウリング大会(2025年2月15日)

場所：ラウンドワン堺店



ESD 支援の取り組み

建設汚泥に関わる粘土・コロイド体感科学の出前教室

大幸グループでは、建設汚泥に関わる粘土・コロイド体感科学の出前教室を開催しています。

2025年1月27日、長崎大学 教養教育1年生 68名(担当:教授 大嶺 聖氏)を対象とした授業において、当グループより役員・浜野真季および壮真君が対面で、水野克己氏がリモートで講師を務めました。



粘土鉱物・中空泥だんごの出前授業

大幸グループでは、2025年6月17日、将来保育士や幼稚園教諭を目指す学生の皆さんを対象に、粘土鉱物・泥だんごを体験していただく出前授業を実施しました。本授業は、地盤工学会 関西支部との協働企画として、京都ノートルダム女子大学講師佐藤真太郎氏指導のもと開催されました。

参加された学生の皆さんは、終始笑顔で、楽しく体験的に学ばれ、和やかな雰囲気の中に授業は終了しました。



最初から再生利用を考えた学習教材の開発

大幸グループでは、大阪大学 教授 乾 徹氏、大阪大谷大学 教授 地下まゆみ氏、長崎大学 教授 大嶺 聖氏らと連携し、粘土鉱物を活用した「最初から再生利用を考えた学習教材」の研究開発を行っています。

中空泥だんご電池は、水と粘土鉱物の粉末を混ぜ合わせるだけで、発熱を伴わず、水のみでLED電球を点灯させることができます。



左が2021年4月24日動画公開した『粒状ベントナイトの膨潤止水実験』、右が開発した『粘土鉱物・毎日、水やり育成型の中空泥だんご電池』

実験終了後は、水耕栽培や土壌改良材として再生利用することが可能です。これらの取り組みについては、日本粘土学会や土木学会 関西支部などにおいて発表しています。



大幸グループ事業概要

大幸工業株式会社

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-6
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 流動化処理土の販売
一般貨物自動車運送事業 特定旅客自動車運送事業
土木、建築工事の施工及び請負 各種清掃業

大阪ベントナイト事業協同組合

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004

汚泥・廃酸・廃アルカリの中間処理、流動化処理土の製造
組合員の取扱う汚泥の共同処理
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

堺大幸工業有限会社

〒590-0063 大阪府堺市堺区中安井町3-4-10
TEL 072-238-3059

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

大幸工業株式会社 泉佐野

〒598-0007 大阪府泉佐野市上町2丁目2-11
光ビル2階
TEL 072-429-9147 FAX 072-429-9146

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 一般貨物自動車運送事業
ビルメンテナンス業

北部大幸工業有限会社

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-5-13
TEL 06-6226-0882

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

有限会社大幸リース

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0005 FAX 06-6686-0002

機械のリース、運搬車両のリース



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2025 大幸グループ サステナビリティレポートアンケート

皆さまのご意見・ご感想を今後の活動や報告書作成に生かしてまいります。下記 QR コードを読み込み、アンケートのご回答をお願いいたします。

大幸グループサステナビリティレポート事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001



大幸工業株式会社

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002
東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目18番6号
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

大阪ベントナイト事業協同組合

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004

